

平成21年8月25日

(社) 日本旅行業協会会長 様

北海道環境生活部長



北海道が管理する避難小屋の適正利用について

本道の自然環境行政の推進につきましては、日頃からご理解とご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

近年、百名山登山など中高年者を中心とした登山ブームにより登山者が増加しておりますが、本道の山岳地は夏場であっても気温が急激に低下するなど、非常に厳しい気象環境下にあると言われております。このため、道内においても遭難事故が多発しており、既にご承知のとおり、今年7月にはトムラウシ山と美瑛岳のツアー・ガイド登山によります遭難事故で過去最悪の死者が出たところです。

北海道としましても、山岳地を訪れる登山者の安全確保を図るために大雪山系などの山岳地に避難小屋を設置していますが、この避難小屋は一時避難を目的にした公共施設として登山者の方々に開放しております。(旭岳、忠別岳、ヒサゴ沼、上ホカメツクの名無難小屋)

こうした中で、今回の遭難事故に関連して、報道機関や登山者から一部のツアー登山によります避難小屋の利用において、先乗りして集団での場所取りをするなど公共施設の利用上のモラルを著しく欠く行為が見られるとのご指摘をいただいております。このような利用は遭難事故を誘発しかねず放置できないことから、現在、注意喚起の文書を避難小屋内や北海道のホームページ上への掲示などの取り組みを行っているところです。

つきましては、この趣旨にご理解の上、ツアー登山等の一層の安全確保に努められるとともに公共施設の適正な利用について、貴協会の会員の皆さんに周知していただきますようお願いいたします。

〔 環境局自然環境課自然ふれあいグループ 〕

担当 土屋、大和田 TEL 011-204-5204